

開講年度	2023		
開講学期	前期		
科目名	航空法規（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	44	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機の整備従事者に必要な法規則等について知識を習得し、航空従事者学科試験「法規」合格を目指す。		
授業計画	航空機の整備従事者に必要な法規則等について航空関係法規及びヒューマンファクターについて授業を実施		
テキスト	新航空法規解説(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	前期		
科目名	航空力学（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	44	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機に作用する力や航空機の運動及び性能等について、空気力学を中心に考えその知識を習得する。 また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。		
授業計画	航空機に作用する力や航空機の運動及び性能等について、空気力学を中心に考えその知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「航空力学」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績 評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	前期		
科目名	機体システム（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機に用いられる各種システムの機能や取扱い等の知識を習得する。 また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。		
授業計画	航空機に用いられる各種システムについて、その機能や取扱い等の知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「航空機システム」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	前期		
科目名	機体構造（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	36	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機の構造について、その設計の意図、特徴、取扱い等の知識を習得する。 また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。		
授業計画	航空機の構造について、その設計の意図、特徴、取扱い等の知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「飛行機構造」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	前期		
科目名	航空機材料（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機に使用される各種材料の性質や取扱い等の知識を習得する。 また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。		
授業計画	航空機に使用される各種材料について、その性質や取扱い等の知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「航空機材料」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績 評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	前期		
科目名	航空計器（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	36	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機に装備される各種計器の構造、機能等の知識を習得する。 また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。		
授業計画	航空機に装備される各種計器の構造、機能等についての知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「航空計器」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績 評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	前期・後期		
科目名	電子装備品等（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	48	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機に装備される各種電子・電気機器の構造、機能等の知識を習得する。また、航空従事者学科試験「機体」科目設問内容を理解し、合格を目指す。		
授業計画	航空機に装備される各種電子・電気機器の構造、機能等についての知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「航空電子・電気の基礎」、「航空電子・電気装備」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	前期		
科目名	発動機ピストン（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	48	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機に装備されるピストン発動機の構造、機能、性能等についての知識を習得する。また、航空従事者学科試験「発動機」科目設問内容を理解し、合格を目指す。		
授業計画	航空機に装備されるピストン発動機について、その構造、機能、性能等についての知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「ピストン・エンジン」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	前期		
科目名	発動機プロペラ（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	24	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機に装備されるプロペラの構造、機能、取扱い等についての知識を習得する。また、航空従事者学科試験「発動機」科目設問内容を理解し、合格を目指す。		
授業計画	航空機に装備されるプロペラについて、その構造、機能、取扱い等についての知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「プロペラ」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	後期		
科目名	発動機タービン（座学・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	タービン・エンジンの構造、機能、性能など基礎知識の習得を目標とし、航空経歴認定のため 学期末試験にて70点以上取得を目指す。		
授業計画	航空機に装備されるタービン発動機について、その構造、機能、性能等についての知識を教授する。		
テキスト	航空工学講座「タービン・エンジン」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	前期・後期		
科目名	基本技術(学科) (座学・専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	64	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	航空機の整備、取扱いに必要な「基本的整備技術」の知識の習得を目標とする。 学期末試験にて60点以上取得を目指す。		
授業計画	航空機の整備、取扱いに必要な「基本的整備技術」についての知識を教授する。		
テキスト	「航空機の基本技術」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績 評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	1年後期・2年前期		
科目名	電気技術(学科) (座学・専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	112	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年、2年		
到達目標	電気に関する一般的な知識を習得。 第2種電気工事士 学科試験合格を目指す。		
授業計画	電気に関する一般的な知識を教授するとともに、第2種電気工事士の資格取得に必要な知識、技能を教授する。		
テキスト	第2種電気工事士 学科試験問題集(出版社刊行)		
試験／成績 評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	2年後期		
科目名	機械技術(学科) (座学・専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	機械工作に関する一般的な知識を習得。		
授業計画	機械工作に関する一般的な知識を教授するとともに、製造技術者に必要な知識、技能を教授する。		
テキスト	一般機械解説資料(出版社刊行)		
試験／成績 評価方法	小テストによる評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	前期・後期		
科目名	基本技術(実技) (専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	336	授業方法	実習
対象学年	航空整備士学科1年、2年		
到達目標	航空機の整備、取扱いに必要な「基本的整備技術」の知識、技能の習得。		
授業計画	航空機の整備、取扱いに必要な「基本的整備技術」についての知識、技能を教授する。		
テキスト	「航空機の基本技術」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績 評価方法	学期末試験による評価及び 課題製作物評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	1年後期・2年前期		
科目名	機体装備品(実技) (専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	140	授業方法	実習
対象学年	航空整備士学科1年、2年		
到達目標	特定の航空機を対象に、その構造、系統、装備品等並びに航空機全般にわたる取扱要領や整備要領を実践的に習得。知識と実技を総合的に深める。		
授業計画	航空機の構造、系統、装備品等並びに航空機の全般にわたる取扱要領や整備要領を実践的に教授し、知識と実技を総合的に深める。		
テキスト	教材となる飛行機の「サービスマニュアル」(飛行機メーカー)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	前期		
科目名	発動機ピストン(実技) (専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	実習
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	特定の発動機を対象に、全般にわたる構造、機能、性能、取扱要領や整備要領を実践的に習得。知識と実技を総合的に深める。		
授業計画	特定の発動機を対象に、全般にわたる構造、機能、性能、取扱要領、整備要領等を実践的に教授し、知識と実技を総合的に深める。		
テキスト	教材となる発動機の「メンテナンスマニュアル」(発動機メーカー)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	後期		
科目名	発動機タービン（実技・専門科目）		
担当教員	実務経験教員（航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士）		
必須選択	必須		
授業時数	56	授業方法	実習
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	タービン発動機の構造、機能、取扱要領、整備要領等を実践的に習得し、知識と実技を総合的に深める。		
授業計画	タービン発動機の構造、機能、取扱要領、整備要領等を実践的に教授し、知識と実技を総合的に深める。		
テキスト	航空工学講座「タービン・エンジン」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行) 実習該当機材サービスマニュアル(メーカー刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	1年後期・2年前期		
科目名	電気技術(実技) (専門科目)		
担当教員	実務経験教員 (航空運送事業者、使用事業者、官公庁での航空整備士)		
必須選択	必須		
授業時数	84	授業方法	実習
対象学年	航空整備士学科1年、2年		
到達目標	電気に関する一般的な実技知識を教授するとともに、第2種電気工事士の資格取得に必要な知識、技能を習得。知識と実技を総合的に深める。第2種電気工事士の実技試験合格、資格取得をめざす。		
授業計画	電気に関する一般的な実技知識を教授するとともに、第2種電気工事士の資格取得に必要な知識、技能を教授する。		
テキスト	第2種電気工事士 実技試験問題集(出版社刊行)		
試験／成績評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	前期・後期		
科目名	総合技術(実技・専門科目)		
必須選択	必須		
授業時数	112	授業方法	講義 実習
対象学年	航空整備士学科1年後期、2年前・後期		
到達目標	航空機全般(含むヘリコプター)を対象として、電装関係、大型機概要及びヘリコプター構造機能等を実践的に習得して、知識と実技を総合的に深める。		
授業計画	<p>1 電装関係:航法や電源系統及び電装品の働きについてシュミレーターなどを利用して概要を理解させる。</p> <p>2 大型機概要:旅客機のシステム全般や最新ジェットエンジンについて概要を理解させる。併せて、AMMの読み方に役立つ航空英語のの基本を理解させる。</p> <p>3 ヘリコプター構造機能:パイロット学科の訓練機であるR22ヘリコプターを使用してヘリコプターの構造・機能について概要を理解させる。</p>		
テキスト			
試験/成績評価方法	小テストによる評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	前期・後期		
科目名	総合技術(専門科目;航空機設計飛行特性)		
必須選択	必須		
授業時数	2年前期 28時限	2年後期14時限	授業方法 実習
対象学年	航空整備士学科技術コース2年		
到達目標	<p>ハードペーパーを使い、航空機の模型を製作する。 製作する過程において以下の技能を習得する</p> <p>①航空力学 ②製造過程の品質及び進捗管理(生産管理) ③PDCAの進め方 ④日々のレポート作成により考察力、まとめる力 ⑤チームワーク</p>		
授業計画	<p>* 授業 ①時限数 前期28限後期28限合計56限 ②前期において既存の設計図を使い製作、飛行までの課程を習得する ③後期においては、自ら設計し製作、飛行までの課程を習得する。 ④校内選手権で飛行時間を競う。 ⑤技能オリンピックの種目に入れ飛行時間を競う。</p> <p>* 授業の教室 多目的ルーム、自習室 堺市体育館、 別所</p>		
テキスト	高性能紙飛行機		
試験/成績 評価方法	<p>①校内選手権で滞空時間を競う ②技能オリンピックで滞空時間を競う ③日々のレポート ④最終製作レポート ⑤到達目標のレベル(5段階評価)確認を期末で行う</p>		
その他			

開講年度	2023		
開講学期	1年前期・後期 2年前期		
科目名	英語（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	84	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科1年、2年		
到達目標	<p>基礎的な文法や英語特有の文章構成を十分理解し、問題に慣れていくことを目的とする。</p> <p>読解、聴解のコツを活用し、短時間で問題に対応できることを目指し、合格及びスコアUPにつなげる。</p> <p>中級語彙およびレベルに適した文法力を適用し、自分の意見を客観的に論理的に伝えるスキルを身につける。</p>		
授業計画	<p>1年次：(レベル別に授業を実施)</p> <p>①各級に分かれた英検対策。</p> <p>②TOEIC及びTOEIC Bridge対策。</p> <p>③読解力・思考力育成。</p> <p>2年次：(レベル別に授業を実施)</p> <p>①各級に分かれた英検対策。</p> <p>②TOEIC及びTOEIC Bridge対策。</p> <p>③英語読解スキルを育成。論理的・客観的英文表現。</p> <p>④思考力育成。</p>		
テキスト	TOEIC対策テキスト、単語テキスト、英検準2級対策テキスト、準2単語テキスト 英検3級対策テキスト、3級単語テキスト(各出版社刊行版)		
試験／成績評価方法	学期末試験による点数及び平常点(授業態度などの評価)の総合評価		
その他	70%以上の出席および学期末試験で60点以上が必要		

開講年度	2023		
開講学期	1年後期・2年前期		
科目名	一般常識(SPI) (一般科目)		
必須選択	必須		
授業時数	56	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科1年、2年		
到達目標	基礎的な学力の向上及び企業が行う入社テストに対応した知識を習得。 SPIテキストの演習によりSPI形式の試験に対応する力を身につける。		
授業計画	基礎的な学力の向上及び企業が行う入社テストに対応した知識を教授する。		
テキスト	SPI 3テキスト(出版社刊行版)		
試験／成績 評価方法	学期末試験による評価		
その他	70%以上の出席および学期末試験で60点以上が必要		

開講年度	2023		
開講学期	1・2年前期・後期		
科目名	就職対策（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	140	授業方法	演習
対象学年	航空整備士学科1年、2年		
到達目標	社会人として必要なマナー、文書の作成、面接要領等について必要な知識を習得。		
授業計画	社会人として必要なマナー、文書の作成、面接要領等について教授する。		
テキスト	一般出版社刊行のマナー本、前年度以前の受験報告資料		
試験／成績 評価方法	課題提出、実面接による評価		
その他			

開講年度	2023		
開講学期	前期		
科目名	IT基礎（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	56	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	Microsoft Office機能を使いこなすために必要な知識を習得。		
授業計画	Microsoft Office機能を使いこなすために必要な知識を教授する。		
テキスト	講師作成のテキスト		
試験／成績 評価方法	課題作成、小テストによる総合評価		
その他	パソコンを使用しながら実践的に教授。 70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	後期		
科目名	グランドハンドリング（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	地上における航空機の取扱一般並びに航空機周辺作業に係る全般的な知識を習得。		
授業計画	地上における航空機の取扱一般並びに航空機周辺作業に係る全般的な知識を教授する。		
テキスト	航空機のグランドハンドリング（日本航空技術協会 刊行）		
試験／成績 評価方法	小テストによる評価		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	1年後期		
科目名	非破壊検査技術（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	56	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	電流、超音波、蛍光剤等を使用して行う非破壊検査技術に係る知識、技術を習得。 渦流探傷レベル1資格を目指す		
授業計画	電流、超音波、蛍光剤等を使用して行う非破壊検査技術に係る知識、技術を教授する。		
テキスト	渦流探傷テキスト(非破壊検査株刊行)		
試験／成績 評価方法	小テスト		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	後期		
科目名	安全・品質（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	健康管理、事故防止を考えながら安全衛生と品質管理の重要性について必要な知識を習得。		
授業計画	健康管理、事故防止を考えながら安全衛生と品質管理の重要性について学ぶ。		
テキスト	学校作成の安全・品質テキスト		
試験／成績 評価方法	受講レポート及び小テスト		
その他			

開講年度	2023		
開講学期	前期・後期		
科目名	課外授業（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	70	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科1年、2年		
到達目標	学校、社会のルールを認識し、協調性、自主性、連帯意識を養うなど 普通の授業で得にくいものを得る		
授業計画	オリエンテーション、球技大会、学園祭等、学生として参加が求められている 各種学校行事		
テキスト	各行事資料		
試験／成績 評価方法	出席確認による（評価は無し、球技大会等においては）		
その他			

開講年度	2023		
開講学期	後期		
科目名	英語（一般科目）		
必須選択	選択1		
授業時数	28	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	実用英語検定並びにTOEICテストにおいて上位レベル到達に必要な知識を習得。 現有レベルより上位の英語検定資格合格を目指す。		
授業計画	実用英語検定並びにTOEICテストにおいて上位レベル到達に必要な知識を教授する。レベル別授業を行う。		
テキスト	TOEIC対策テキスト、単語テキスト、英検準2級対策テキスト、準2単語テキスト 英検3級対策テキスト、3級単語テキスト(各出版社刊行版)		
試験／成績 評価方法	学期末試験による評価(技術コース管理規定に定めるとおり)		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	後期		
科目名	一般教養（一般科目）		
必須選択	選択2		
授業時数	28	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	社会人として必要な一般教養に係る知識を習得。		
授業計画	社会人として必要な一般教養に係る知識を教授する。		
テキスト	SPIテキスト、一般教養にかかる一般資料		
試験／成績 評価方法	小テスト		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	後期		
科目名	IT応用（一般科目）		
必須選択	選択2		
授業時数	28	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	CAD機能に係る知識を習得。パソコンでCADを使用して初歩の図面を作成できること。		
授業計画	CAD機能に係る知識を教授する。		
テキスト	講師作成資料		
試験／成績 評価方法	小テスト、課題製作提出		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	後期		
科目名	航空英語（一般科目）		
必須選択	選択1		
授業時数	28	授業方法	講義・演習
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	英文の航空機及びエンジンのマニュアルを読解する知識を習得。		
授業計画	英文の航空機及びエンジンのマニュアルを読解する知識を教授する。		
テキスト	これから学ぶ航空機整備英語マニュアル（日本航空技術協会 刊行）		
試験／成績 評価方法	小テスト		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023		
開講学期	前期		
科目名	総合（一般科目）		
必須選択	必須		
授業時数	28	授業方法	講義
対象学年	航空整備士学科1年		
到達目標	専門科目授業を中心に、授業で理解できなかった部分をレビューし、積み残し無しで次のステップ(授業)に望めるようにする。		
授業計画	授業で理解できなかった部分をレビューし解説を行い、積み残し無しで次のステップ(授業)に望めるように教授する。		
テキスト	各教科テキスト		
試験／成績 評価方法	出席確認による(評価は無し)		
その他			

開講年度	2023		
開講学期	後期		
科目名	総合(一般科目;航空機構造)		
必須選択	必須		
授業時数	1年後期 12時限	2年後期 30時限	授業方法 講義・実習
対象学年	航空整備士学科1年、2年		
到達目標	モックアップ作成を通して、航空機の基本構造に係る理解を深めるとともに、基本作業に係る技量向上を図る。また、実践に近い作業環境づくりとして、工程計画の策定および作業進捗管理を自ら行い、調整能力、コミュニケーション能力の向上を図る。		
授業計画	代表的な航空機胴体構造のモックアップの作成を行い、図面の確認、工程計画の策定、部品の作成・位置決め・取付け、工程管理を教授する。		
テキスト	航空工学講座「飛行機構造」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行) 「航空機の基本技術」(公益社団法人 日本航空技術協会 刊行)		
試験／成績 評価方法	課題提出(グループ・ワーク)による評価。 課題提出には、課題作品の作成に係る直接的な事項以外に次の評価を含む。 ・安全意識 ・協調性 ・工程管理(納期管理) ・調整力 ・コミュニケーション力		
その他	70%以上の出席が必要		

開講年度	2023																		
開講学期	前期 後期																		
科目名	総合(一般科目;無人航空機)																		
必須選択	必須																		
授業時数	2年前期14時限 2年後期14時限	授業方法	講義・実習																
対象学年	航空整備士学科2年																		
到達目標	無人航空機飛行の安全に関する教則の理解・それに基づいた飛行演習を行いドローンゴルフ競技を実施																		
授業計画	<p>到達目標 「二等無人航空機操縦士」学科試験合格</p> <p>教材</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 無人航空機の飛行の安全に関する教則(航空局発行) 2. 教則のまとめ 3. 航空局HPの図(PowerPoint) 4. 問題プリント集 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;"></th> <th style="text-align: right;">時限数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2章 無人航空機操縦者の心得</td> <td style="text-align: right;">12</td> </tr> <tr> <td>3章 無人航空機に関する規則</td> <td style="text-align: right;">6</td> </tr> <tr> <td>4章 無人航空機のシステム</td> <td style="text-align: right;">2</td> </tr> <tr> <td>5章 無人航空機の操縦者及び</td> <td style="text-align: right;">2</td> </tr> <tr> <td>6章 運航上のリスク</td> <td style="text-align: right;">6</td> </tr> <tr> <td>実技</td> <td style="text-align: right;">6</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">28</td> </tr> </tbody> </table>				時限数	2章 無人航空機操縦者の心得	12	3章 無人航空機に関する規則	6	4章 無人航空機のシステム	2	5章 無人航空機の操縦者及び	2	6章 運航上のリスク	6	実技	6	合計	28
	時限数																		
2章 無人航空機操縦者の心得	12																		
3章 無人航空機に関する規則	6																		
4章 無人航空機のシステム	2																		
5章 無人航空機の操縦者及び	2																		
6章 運航上のリスク	6																		
実技	6																		
合計	28																		
テキスト	無人航空機飛行の安全に関する教則																		
試験／成績 評価方法	<p>座学: 確認小テスト</p> <p>実習: 実習時の人物評価及び最終のドローンゴルフ競技の結果</p> <p>上記の総合評価</p>																		
その他	70%以上の出席が必要																		

開講年度	2023		
開講学期	前期・後期		
科目名	総合(一般科目:小中学校へ出前授業)		
必須選択	必須		
授業時数	2年前期20時限	2年後期8時限	授業方法
			実習
対象学年	航空整備士学科2年		
到達目標	<p>○専門学校で学んだことを生かして教材を製作し、“自分の考えや思いを相手に伝える”ことを意識して授業を行う</p> <p>○小中学生に航空業界に興味をもってもらい、“もっと知りたい”につなげる</p> <p>○教材を考えながら1から製作することのよってより知識を深める</p>		
授業計画	<p>○出張授業をする学校の決定(スケジュールも)</p> <p>○どんな授業をするのか(持ち時間はどれくらいか)</p> <p>○教材制作(授業で使う教材、パワーポイント)</p> <p>●出張授業内容(案)</p> <p>航空機、航空業界について簡単な説明</p> <p>授業(小中学生に興味をもってもらえる内容:クイズなども交えながら)</p> <p>大阪航空専門学校について</p> <p>学生同士の交流会</p>		
テキスト	不要		
試験/成績評価方法	試験は実施しない。出席率、協調性、積極性、日報で評価する。		
その他			